



市看×いちかん

ちいき通信

2015年 冬号

2015年12月10日 発行

いちかん…神戸市看護大学の略称「市看」

「(い)っしょに (ち)いきづくりについて (かん)がえる」をコンセプトにしています。

今号の内容



P1. ・地域の生活を支える
人材育成を目指して
・COCコラボ教育ピックアップ

P2～3. COCフォーラム
・地域の顔
(住民座談会の報告)
・地域づくり・健康づくり
(須磨区まちづくり課
鎌田智江さん)

・コラボ教育での学び
(大学院博士前期課程2年生
原田富士子)

・COC研究ひろば 第5回
(地域・在宅看護学
宇多みどり)

P4. 活動予定

地域の生活を支える人材育成を目指して

神戸市看護大学 老年看護学分野 助教 秋定真有

COC事業では、地域の人々の暮らしを理解できる人材、とりわけ、地域の連携をサポートし、地域における看護を担う人材の育成に力を入れています。

そこで、COC事業の枠組みを踏まえた老年看護学分野の4年次の総合実習では、従来の介護老人保健施設実習に、今年度より居宅介護支援事業所や病院の総合支援相談室での実習を取り入れました。この実習では、対象者の方とご家族の地域での生活を支えるために、病院看護師、訪問看護師、医師、理学療法士など多職種の人々がどのように連携しているかを学びます。そこで学生は、多職種の人々が、対象者の方とご家族の望む生活を支えるために寄り添って、例えば、介護保険サービスの利用調整などにおいて連携する様子を具体的な場面として目にし

ます。学生は実際に介護保険サービスを利用し生活している人々の生の声を耳にし、その生活を支える専門職の熱意ある姿を間近に見ることにより、これから地域における看護を担っていく自分たちに求められる役割を感じ取ることができたと思います。実習後には、「将来は、地域で人々の生活を支える看護師として活躍したい」と抱負を語る学生もいました。

この実習は、暑い時期に行いましたが、季節が巡るのは早いもので、少し涼しくなったと思ったら、やがて日に日に寒さが増し、今ではもう雪が降りそうです。桜の咲く頃になれば、学生達も1人の看護師として看護の実際の場合へ巣立っていきます。地域の人々のその人らしい生活を支えることができる看護師として、この実習での学びを活かしながら、成長して行ってほしいと思います。

COCコラボ教育ピックアップ ～2015年秋「ヘルスプロモーション論」～

ヘルスプロモーションは、「人々が自らの健康とその決定要因をコントロールし、改善することができるようにするプロセス」と定義されており、地域の健康づくりを考えるうえで基本となる概念です。本学では1年生の必修科目となっており、年1回須磨パティオホールで、住民と学生が合同で講義を聴講します。今年度のテーマは「あなたの脳は健康ですか？」です。認知症予防の生活習慣の講義を聞き、「脳トレ体操」を実践しました(トップページ写真)。「脳はあきらめない!」をキーワードにし、「聞いたことを頑張ってみます」と住民の方から感想をいただきました。舞台上に立っての体操では、学生はなかなか積極的に前に出られない場面もありました。コラボ教育を通して、専門職として自信を持って住民の方と接することができるナースに成長していくといいですね。

(神戸市看護大学 地域連携教育・研究センター 准教授 相原洋子)